

6 説明的文章1 指示語・接続語

組			
番号			
氏名			

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

縄文時代における漆利用は、土器に付着する漆塗膜の存在などから戦前より注目されてきましたが、その資料数は少なく、当時の技術を知るまでには至っていませんでした。(a)、近年の発掘調査によって、多くの漆製品が各地で出土し、装飾的な部分だけでなく、具体的な漆利用の実態が少しづつ明らかになってきました。

特に低湿地遺跡の調査が進むにつれ、様々な植物質の遺物が発見されるようになり、縄文時代の生活様式が多様であったことも分かってきました。(b)、様々な理化学的な分析によって遺跡を取りまく周辺環境の様相も明らかになっており、集落内でウルシの栽培・管理を行っていることも分かってきました。

東京都東村山市にある下宅部遺跡では、河川に打ち込まれた杭の材料として搔き傷の残ったウルシの木が利用されており、^①その数は五百本中四十二本と非常に割合が高いことがわかっています。ウルシの木は軽くて水に強いという特徴をもっており、^②そういった性質を生かして河川の杭として再利用されたものと考えられます。

また、その割合の高さや遺跡から出土する漆塗りの土器や弓などの漆製品の多さから考えて、遺跡周辺でウルシの木を栽培・管理していたことがうかがえます。

(仙台市富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム)編集『漆の考古学』より・一部改)

* 漆塗膜：漆を塗料として用いて、塗った膜。耐久性、耐薬品性に優れた特長がある。

* 理化学的な：物理学と化学による。

* 下宅部遺跡：縄文時代後期の遺跡。

* 「ウルシ」と「漆」：「ウルシ」は植物として、「漆」はウルシから採取した液及びそれを利用したものと表記している。

* 搔き傷：漆はウルシの幹の樹皮に搔き傷を付けて採取する。

1 文章中の a、b、c の () に入る適切な語句を次の語群から選び、記号で答えなさい。

ア また イ 例えば
ウ しかし エ そして

a
ウ
b
ア

注 a については、前の文と後の文が逆説の関係になっていることがヒント。

2 ①その数、②そういった性質は、それぞれどのような事柄を指していますか。①は「く数」、②は「く性質」という形で簡潔に答えなさい。

②	①
軽くて水に強いというウルシの木の性質 (ウルシの木は軽くて水に強いという性質)	掻き傷の残ったウルシの木の数